

大分大学大学院 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

理工学研究科博士前期課程 【修士（理工学）】		高度な知識と知的能力	確かな研究マネジメント能力	社会を牽引する能力
ディプロマ・ポリシー	高度な専門知識をもち、課題発見・解決能力や情報管理・分析能力を備えるとともに、学際領域に係る課題を複合・融合的に解決できる能力を修得し、かつ以下の能力を有した学生に「修士（理工学）」の学位を授与する。	専門分野における高度な知識を深化させて、その展開力を強化し、理工学の視点から複雑化する社会の諸問題に対して、情報やデータを分析し、論理的な思考と批判的な視点をもって、学際的かつ創造的に取り組むことができる。	研究の目的、方法やスケジュールを明確に計画し、倫理、知的財産権、著作権などの規範に基づき研究を遂行し、研究に係る情報や結果を適切に管理・活用できる。	多様性を尊重し、グローバルな視点をもちながら課題解決のために高度な論理的思考力と協働を重視したコミュニケーション力のもと、率先して持続可能な社会とイノベーションの創造・創出に意欲的・積極的に参画できる。
カリキュラム・ポリシー	博士前期課程では、学部における理工融合教育からの展開力をさらに強化し、学際領域に係る課題をグローバルな視点から、複合・融合的に解決できる能力や資質を養成する。ディプロマ・ポリシーで定めた3つの能力を育成するため、全研究科共通科目、理工学連携・基礎科目群、理工学専門科目と研究展開科目群を含むカリキュラムマップ等に基づく、横断的かつ体系的な教育課程を編成する。	<ul style="list-style-type: none"> 理工学連携・基礎科目群により、理学及び工学の応用と専門分野との結びつきを理解し、理工学に関する連携力を強化する。 理工学専門科目の専門領域科目群に、高度な専門知識を学修するための科目をプログラムごとに設定し、理工学の専門的知識を実践的に展開できる技能や、それぞれの専門分野において国際基準を満たす高度な専門的知識を修得する。 研究展開科目群は特別研究からなり、理工学的な視点から調査・研究を行い、その成果をとりまとめた修士論文を作成・発表し、研究開発能力の養成とプレゼンテーション能力の向上を行う。 高度実践系科目群では、デジタル変革（DX）人材育成に焦点を当てた高度情報実践系科目により、社会のデジタル変革に必要な実践的ITスキルを修得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 理工学連携・基礎科目群により、情報リテラシーや研究者倫理を修得する。 特別研究の実践により、研究の目的、方法やスケジュールを明確に計画できる能力を養成する。 特定課題研究（情報・数理・データサイエンスプログラム-高度実践系のみ）の実践により、課題解決のための計画や遂行能力を養成する。 特別研究や特定課題研究での研究課題遂行・成果発表を通じて、著作権の理解や研究者倫理を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 全研究科共通科目により、学際的思考力を強化し、専門分野からの展開力を修得する。 理工学専門科目のEnhanced PBL科目群により、専門分野における社会的課題の理解を深め実践力、展開力を修得する。 理工学専門科目のグローバル分野・学外特別実習科目群により、英語表現能力、専門科目の応用力・実践力を修得するとともに、社会人として必要となる高度な分野横断的でグローバルな視点を深める。また、産業や経営に関する知識を学び、研究実践を通じて社会の中での研究の位置づけや影響について学修する。 特別研究や特定課題研究により、自ら問題を発見し、それを解決する論理的思考力と研究実践力・研究管理能力を修得する。
	教育課程の編成と教育内容	全研究科共通科目、理工学連携・基礎科目群及びグローバル分野・学外特別実習科目群は共通科目として学修し、高度な専門的知識については、情報・数理・データサイエンスプログラム（情報・数理系、高度実践系）、先進機械システムプログラム、物理・電気電子プログラム、応用化学プログラム、地域デザイン・建築学プログラムの5プログラムの専門領域科目群、Enhanced PBL科目群、特別研究、特定課題研究（情報・数理・データサイエンスプログラム-高度実践系のみ）において学修する。 プログラムごとに以下を学修する。 【情報・数理・データサイエンスプログラム】（高度実践系） ・データサイエンス、IoTソリューション、ネットワーク・セキュリティに関する高度な専門的知識・技術を修得し、数理的な思考にも基づきながら諸現象のシミュレーションやモデル化、そして社会のデジタル変革に関する諸課題の解決法に取り組み、実践する。 （情報・数理系） ・情報学、計算機工学、知識科学及び数理科学の高度な専門的知識・技術を修得し、これらを用いて、数理的知識・推論を活用しながら情報の利活用と諸現象のシミュレーションやモデル化、そして情報システムの諸課題の解決法に取り組み、実践する。 【先進機械システムプログラム】 ・機械、エネルギー、電気工学に加えて、人間工学や情報工学の高度な専門的知識を修得し、理学の基礎に基づく最先端の機械・エネルギー機器、福祉・医療機器等の諸課題の解決法に取り組み、実践する。 【物理・電気電子プログラム】 ・物理学と数学などの理学と電気電子工学分野の高度な知識・技術を修得し、これらを用いて機能材料、半導体、エネルギー、制御・計測、シミュレーション等の諸課題の解決法に取り組み、実践する。 【応用化学プログラム】 ・基礎化学、物質・材料化学及び生物化学を基礎として、応用化学の高度な専門的知識・技術を修得し、素材、環境、エネルギーに関連する諸課題の解決に取り組み、実践する。 【地域デザイン・建築学プログラム】 ・環境科学や理学の基礎に基づく建築学分野の高度な知識・技術を修得し、地域環境、海洋・河川環境、防災、建築・都市計画、建築環境、建築構造、建築材料等の諸課題の解決法に取り組み、実践する。	教育方法	各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づく厳格な成績評価を行うとともに、下記の方法で見直しや改善を行う。 1. 学修成果の評価のもととなるアセスメント評価チェックリストは、教育の改善や改革に対応して見直し、公表する。 2. 授業改善の取組み、成績評価方法の妥当性については、成績分布の検証を行い、改善を行う。 3. 特別研究、特定課題研究に係る指導により、国内外の学会での研究発表のためのプレゼンテーション能力の向上を行い、修士論文、修論試問、特定課題研究報告により、研究や開発能力、プレゼンテーション力、報告書作成力を評価する。 4. 修了時の「修了予定者アンケート」により、カリキュラム満足度、学修達成度を調査評価し、教育課程の改善と改革を行う。
	学修成果の評価	各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づく厳格な成績評価を行うとともに、下記の方法で見直しや改善を行う。 1. 学修成果の評価のもととなるアセスメント評価チェックリストは、教育の改善や改革に対応して見直し、公表する。 2. 授業改善の取組み、成績評価方法の妥当性については、成績分布の検証を行い、改善を行う。 3. 特別研究、特定課題研究に係る指導により、国内外の学会での研究発表のためのプレゼンテーション能力の向上を行い、修士論文、修論試問、特定課題研究報告により、研究や開発能力、プレゼンテーション力、報告書作成力を評価する。 4. 修了時の「修了予定者アンケート」により、カリキュラム満足度、学修達成度を調査評価し、教育課程の改善と改革を行う。	学修成果の評価	

大分大学大学院 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

理工学研究科博士後期課程 【博士（理工学）】		高度な知識と知的能力	確かな研究マネジメント能力	社会を牽引する能力
ディプロマ・ポリシー	高度で幅広い学際的な知識を備えるとともに、各専門領域及び学際領域の課題を発見・解決し、それを的確に論述、表現でき、加えてプロフェッショナルとしての高い倫理観と責任感をもった行動ができ、かつ以下の能力を有した学生に「博士（理工学）」の学位を授与する。	専門分野におけるより高度で最先端の知識に基づき、自立的かつ学際的な連携のもとで研究を遂行することができるとともに、社会の課題解決やイノベーションにつながる新たな理論および分野の創出実現に取り組むことができる。	専門分野におけるより高度な研究プロジェクト実施のための計画を自ら立案し、管理・遂行することができるとともに、社会における責任と使命を強く認識し、豊かな人間性、法令遵守精神、並びに高い倫理観に基づいた行動ができる。	多様な文化や価値観を理解・尊重し、より高度で論理的な思考力とコミュニケーション力によって、様々な課題解決に向けた広範な協働や研究成果の発信ができるとともに、イノベティブなマインドをもって、持続可能社会の創造・創出に意欲的・積極的に取り組むことができる。
カリキュラム・ポリシー	博士後期課程では、学部及び博士前期課程で養成してきた学際的かつ複合・融合的に諸課題を解決できる能力や資質、グローバルな視点をさらに強化し、専門分野における高度な発展力・展開力と研究プロジェクト遂行能力を養成する。ディプロマ・ポリシーに示す人材養成の目標を達成できるように、具体的に次の学習・教育到達目標を設定し、それに対応した教育課程を編成し実施する。	教育課程の編成と教育内容	専門科目、特別研究、演習科目等の履修を通じて、各専門分野における高度でかつ最先端の専門知識と、社会のイノベーションにつながる新たな分野や理論などの創出に取り組み、研究プロジェクトを企画・立案し、それを遂行できる能力を修得する。	国際実践演習、サイエンスプロジェクト演習、学術論文の作成・投稿等を通じて、学際的視野や国際的コミュニケーション能力を修得するとともに、実社会で通用する科学・技術の創造に取り組むことができる能力を修得する。
		教育方法	専門科目によって高度な専門知識を修得し、それらを応用できるようにし、各種演習科目によって研究プロジェクトの遂行能力を育成する。また、各種の演習科目および実習科目によって、現代社会における課題の抽出能力や解決能力に加え、俯瞰力、高い倫理観及び社会的責任感を育成する。 領域ごとに以下を学修する。 （基礎科学領域） 数理学、情報処理に関する考え方、技術を修得し、非経験あるいは経験に基づく考察と体系化によって、新しい理論の確立あるいは新しい分野の創設に取り組み、実践する。 （先進技術領域） 機械工学、電気電子工学、応用化学分野に関する最先端かつ高度な知識・技術を修得し、これらを用いて新規で実用性に富む物質・材料の創成、システムやデバイスの開発及び高機能・高性能化に取り組み、実践する。 （環境デザイン領域） 自然及び都市を包括した地域循環共生圏における科学及び生活環境、地域環境に関連する高度な知識・技術を修得し、地域循環共生圏の課題解決に取り組み、実践する。	
		学修成果の評価	学修や研究の進捗状況は、演習と実習の結果報告書及び研究成果報告書で確認する。 演習と実習への取り組み、学位論文予備審査、学位論文本審査ならびに公聴会を通じ、学位論文及びプレゼンテーションの内容で最終的学修成果を評価する。	